

【評価区分】Ⅳ：年度計画を達成している（達成率100％）Ⅲ：年度計画を概ね達成している（達成率80％以上）Ⅱ：年度計画を十分には達成できていない（達成率60％程度以上）Ⅰ：年度計画を達成できていない（達成率60％程度未満）									
第3期中期計画	評価 区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価 区分	令和6年度計画達成状況	評価 区分	自己点検・評価委員会	評価 区分	内部質保証推進会議
8. 教育研究等環境 【計画44-1】（総務人事部） ポストコロナに向け、各学部・研究科等における教育研究組織の整備・充実に配慮した適切な施設・設備について、計画的な整備を図るとともに、教育研究等の環境整備について、その適切性について点検・評価、検証を行い、その結果を改善に反映させる。 【計画達成のための方策】 「環境整備に関する実施計画」に基づき計画的な整備を図るとともに、「学生の学修・研究及び生活実態調査」結果などを踏まえて、その適切性について点検・評価、検証を行う。 【評価指標】 ・「環境整備に関する実施計画」に基づく施設・設備の整備状況及び点検・評価、検証の状況 【計画44-2】（総務人事部） ポストコロナに向け、「環境整備に関する実施計画」に基づき、教育研究等を支援する環境等の整備・充実を図る。 【計画達成のための方策】 1. 各キャンパス校舎においてはバリアフリーに配慮した施設・設備の改修を推進する。 2. 各キャンパスの施設・設備の維持管理は、法令に基づき適切に行うとともに施設・設備の老朽化対策に対応した適切な整備を図る。 3. 各学部・研究科等の実験・実習に当たっては、安全面での注意を徹底するとともに、実験・実習室及び設備の管理・責任体制の徹底を図る。 4. 学生の主体的な学習支援のための体制や開放的な空間（ラーニング・ コモンズ）の整備に努める。 【評価指標】 ・「環境整備に関する実施計画」に基づく施設・設備等の整備状況	Ⅳ	R5年度は文科省補助金活用のバリアフリー化を含むR4年度繰越2件を完了した。また、視聴覚設備や受電設備・エレベーターリニューアル等、学修・研究及び生活環境の改善を図った。 【年度計画44-1】 「環境整備に関する実施計画」に基づき計画的な整備を図るとともに、「学生の学修・研究及び生活実態調査」結果などを踏まえて、その適切性について点検・評価、検証を行う。 【評価指標】 ・「環境整備に関する実施計画」に基づく施設・設備の整備状況及び点検・評価、検証の状況	Ⅳ	本学は医療系大学で、看護師等養成施設の基準及び栄養士法に定める基準に基づき施設・設備の整備・維持管理を行っている。施設・設備の老朽化等の点検・評価、検証は、資格を有する業者に委託し、施設担当職員を配置し維持管理を行っている。提出される施設要望について点検・評価し整備している。					
	Ⅳ	1. 五反田本館バリアフリー化は文科省補助金を活用し完了した。R6年度は雄湊キャンパス体育館トイレのバリアフリー化を計画する。各キャンパスのバリアフリー化に配慮した施設・設備の改修を推進する。 2. 法令対応の五反田受電設備の更新、東が丘研究棟エレベーターリニューアルを完了した。東が丘消防設備及び船橋エレベーターリニューアルは契約完了し工事はR6年度に継続実施です。引続き、施設・設備の維持管理は、法令に基づき適切に行う。 3. 雄湊キャンパス事務室拡張工事や世田谷外壁・防水工事は計画とおり完了した。 4. 実験室・実習室の管理・責任体制の徹底は継続実施中である。世田谷キャンパス実習室・実験設備の更新・整備はシナプスに適合させて計画的に整備していく予定。 5. 五反田体育館視聴覚設備を更新し開放的空間の活用に努めている。各キャンパスの視聴覚設備のライト化やキャンパス間の遠隔画像・音声配信は、DX事業と継続的な整合のため継続検討する。 【年度計画44-2】 1. 各キャンパス校舎においてはバリアフリーに配慮した施設・設備の改修を推進する。 2. 各キャンパスの施設・設備の維持管理は、法令に基づき適切に行うとともに施設・設備の老朽化対策に対応した適切な整備を図る。 3. 各学部・研究科等の実験・実習に当たっては、安全面での注意を徹底するとともに、実験・実習室及び設備の管理・責任体制の徹底を図る。 4. 学生の主体的な学習支援のための体制や開放的な空間（ラーニング・ コモンズ）の整備に努める。 【評価指標】 ・「環境整備に関する実施計画」に基づく施設・設備等の整備状況	Ⅳ	1. 計画した雄湊キャンパス体育館トイレのバリアフリー化工事は文科省補助金選定漏れのためR6年度は未実施となった。実施時期を再検討する。 2. R6年度新設の臨床検査学専攻で使用する実習室として臨床検査実習室、微生物学実習室及び生理学実習室の3実習室を世田谷キャンパス本館を改修し整備した。臨床検査技師養成に必要な設備・備品は年次進行で整備する。 3. 委託専門業者による施設・設備の点検・評価、検証として活用している報告は、電気設備点検報告、空調設備点検報告、消防設備点検報告、水質検査報告、エレベータ点検報告、建物は特定建築物定期検査報告です。点検結果により、空調設備は修理・修理、消火器・誘導灯は交換、受水槽は清掃・薬剤投入、エレベータはリニューアルした。引続き、施設・設備の維持管理は、法令に基づき適切に行う。 4. 特定建築物定期検査報告による外壁・防水補修が必要な建物は大規模修繕でなく部分補修で対応した。 5. 視聴覚設備のキャンパス要望は授業の合間に業者委託し修理・交換した。					

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画45】（学長戦略本部） 「多様な価値観を尊重し、一歩先を歩み続ける医療」を支える「一歩先の教育」を実現するため、DXによる基盤強化により「学修者本位の多様な教育の提供」、「学びの質の向上」を図る。 【計画達成のための方策】 1. 教育DXの推進 ポストコロナにおいてもDXを大胆に取り入れ、学修成果の可視化や新しい教育手法の開発を加速する。更に、令和3年度に整備したディプロマサプリメント（DS）やルーブリックを更に進化させて、多元的に学修成果や教育成果を把握、可視化を行い教育の質保証を確保する。また、それらの整備を図るため、文科省等の外部資金を積極的に取り込む。 ◇IT基盤の強化 ・ネットワークの強化（5G対応） ・セキュリティ対策 ・シングルサインオン導入 ・学生PCの継続貸与 ・学生ポータルによる情報発信整備	IV	1. 教育DXの推進 ・大学ビジョンにDXに積極的に取組む旨を追加した。 ・文部科学省支援事業「大学・高専機能強化支援事業」に7月21日選定された。本事業は基金を創設し「デジタル・グリーン等の成長分野をけん引する高度専門人材の育成に向けて、意欲ある大学・高専が成長分野への学部転換等の改革を行う」という新しい試みである。本学は、令和3年度に採択された文部科学省のPlus-DXや産業DXの活動を発展させて、医療情報学科を令和8年度4月改組し健康デジタル科（仮）として開設する申請を行った。IT・データサイエンスによる課題解決、スポーツテクノロジーの活用を柱に人材育成を行い、本学の教育DXのモデル学部として育てていく。本件では、約9億7千万円の助成金交付（外部資金）を獲得することができた。 ・学修成果の可視化に関しては、学修ポートフォリオの充実に力点をおいている。 ◇IT基盤の強化 ・五反田キャンパス、立川キャンパスでは、ICTツール活用が加速する中、WiFiの遅延等が散見されたが、ネットワークインフラの拡張を行い、ネットワーク障害が解消した。 ・情報セキュリティに関しては、令和元年5月24日付元文科高59号の趣旨に基づき、本学における情報セキュリティ水準を適切に維持し、リスクを総合的に低減させることを目的に、新たに「情報セキュリティポリシー」として「情報セキュリティ対策基本方針」及び「情報セキュリティ対策基本規程」を制定するとともに、併せて情報セキュリティ対策の適正な運営を行うため、「情報セキュリティ委員会規程」を制定し、令和5年4月1日より施行、運用を開始した。 ・シングルサインオンについては、継続検討中。 ・学生PCに関しては、全学生への貸与実施。 ・学生ポータルに関しては和歌山キャンパス大学院、五反田キャンパスでテスト運用を実施した。ポータル稼働に関しては、時間割が変動することに上手く対応できないため、本運用には時間がかかると思われる。	【年度計画45】 1. 教育DXの推進 ポストコロナにおいてもDXを大胆に取り入れ、学修成果の可視化や新しい教育手法の開発を加速する。更に、令和3年度に整備したディプロマサプリメント（DS）やルーブリックを更に進化させて、多元的に学修成果や教育成果を把握、可視化を行い教育の質保証を確保する。また、それらの整備を図るため、文科省等の外部資金を積極的に取り込む。 ◇IT基盤の強化 ・ネットワークの強化（5G対応） ・セキュリティ対策 ・シングルサインオン導入 ・学生PCの継続貸与 ・学生ポータルによる情報発信整備	III	1. 教育DXの推進 ・DXに関しては、全学的に行動目標を設定して、高い意識で行動しているが、予算と人的リソースが必ずしも潤沢でないため、すべての計画を実行することが難しい。しかしながら、コロナ禍以降、確実にDX化が定着しつつあるので、計画的な導入を実現するため、予算、情報システムリソースの確保が必要である。 ・文部科学省支援事業「大学・高専機能強化支援事業」は、受験市場の変化や他大学の動向を踏まえて、計画を中止したため、約9億円の補助金を返上した。今後は医療情報学科の学科再編から医療保健学部の学部再編というダイナミックな変更を行い、学生募集の安定化を図る。その意味で、外部資金調達に関しては、ここ数年のような大型な予算を獲得できていないので、ICTに関しても厳選した投資を行った。 ◇IT基盤の強化 ・令和6年度は大きな補助金の獲得が無かったため大型の投資を行っていないが、ハイブリッド授業を効果的に実施するという、本学の方針に基づき、ZOOMライセンスを全学ライセンスに切り替えて、オンライン学習の推進や時間と場所を超えた学生や教員とのコミュニケーションを時間制限なくできるようにした。 ・先ほども説明したが、CampusPlanに保証人ポータルサイト機能を追加し運用を開始することで、保証人とのコミュニケーション強化や郵送物の削減によってレスペーパー促進の環境を整えた。 ・WIFIネットワーク環境の強化やPC貸与は継続して実施している。 ・学内サーバに関しては、順次クラウド化を進めている。これにより、コスト削減、運用負荷の軽減、BCP対策、利便性の向上といった効果が期待できる。				

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
◇教育設備面の強化 ・教室設備のハイフレックス化(対面・オンライン選択授業) ・授業コンテンツ収録スタジオ整備 ・代替実習環境の充実 ・ICTツールの計画的配備 ・ICT利用支援体制の構築	Ⅲ	◇教育設備面の強化 ・昨年度までに導入してきたICT環境（教育DX）の運用支援を行う業務委託体制を構築し、主に五反田、世田谷、立川キャンパスの利用支援を継続して行った。その結果、設備のフル活用や保守運用面に貢献できた。 ・本年度4月にスタートした五反田大学院プライマリーケア看護学領域では、オンデマンドを中心とした講義を展開、多忙な社会人学生の多様な学びに対応することができている。全学の共通科目化を検討するワーキンググループも講義のオンデマンド化による対応を提言しており、今後コンテンツの拡充とともに専用スタジオ環境の整備も検討中する必要がある。 ・代替実習を含むICTツールに関して、各学部の要望調査を行い、全学共通かつ計画的な調達の視点で次年度アイテムを決定（12月）し、導入を行った。 ・教育DXを大学の基本方針と位置付けデジタル技術の更なる活用を図ることを目指している。本年度8月31日～9月1日、DXマネジャーを対象としたシミュレーション事例見学及び意見交換会を京都で開催した。この意見交換会では、教育職員（常勤・非常勤対象）のICTレベルの向上を目的としたICTスキルチェックリストの策定を行い、次年度より本格運用を行う。	◇教育設備面の強化 ・教室設備のハイフレックス化 ・授業コンテンツ収録スタジオ整備 ・代替実習環境の充実 ・ICTツールの計画的配備 ・ICT利用支援体制の構築	Ⅰ	◇教育設備面の強化 ・ZOOMの全学ライセンス化により、教員の全てが無制限にZOOMを使用できるため、これまで以上にハイブリッド化が促進された。全学ライセンスは、学生も無制限に使えるようになるが、令和6年度は移行期間として、学生に周知していなかった。令和7年度からは全学生も無制限ライセンスに移行することで、学生間、教員と学生間のコミュニケーションの促進に寄与したい。 ・講義のオンデマンド化には、授業収録を簡易にできることが必要になるが、上記のZOOMの全学ライセンス化によりZOOM録画機能を有効に使えるようになり、授業コンテンツの二次活用が可能になった。 ・本学では5つの看護学部学科があり、ICTツールの導入がバラバラという構造的な課題を抱えていたが、計画的なICTツールの調達を実現するために行ってきた「ICTツール要望調査」も4年目を迎え、全学導入ツールの共通化や調達コストの最適化が図られてきた。				
◇学修成果の可視化 ・LMS(学修管理システム)と教務システム連携強化 ・ディプロマサプリメント機能拡充 ・ICEルーブリック全学導入 ・学修ポートフォリオの整備 【評価指標】 ・教育DXの推進状況		◇学修成果の可視化 ・看護演習のポートフォリオ化を実現するため、千葉、東が丘、和歌山LMS（WebClass）の学修カルテ機能の活用を推進した。 ・和歌山キャンパス、立川キャンパスでは、看護演習ポートフォリオシステムを本格導入して、演習状況の可視化、IRデータ収集、学生の形成的評価に効果が出ている。2キャンパスの導入効果を見ながら全学展開を検討中。	◇学修成果の可視化 ・LMSと教務システム連携強化 ・ディプロマサプリメント機能拡充 ・ICEルーブリック全学導入 ・学修ポートフォリオの整備 【評価指標】 ・教育DXの推進状況		◇学修成果の可視化 ・学修成果の可視化では、Webclassのポートフォリオ機能に加え、和歌山と立川キャンパスでは、実習ポートフォリオとしてF.CESSナースを導入して、実習病院と本学キャンパスをシームレスにつないだポートフォリオ化が可能になった。現在は2学部での導入だがライセンスは全学ライセンスなので水平展開をおこなうべく、学内周知を継続する。 ・保証人ポータルサイトの運用準備を行った。次年度開始。				
2. 研究DXの推進 研究活動を支えるICT基盤環境を図り、オープンサイエンス時代を先導する研究を創出する。		2. 研究DXの推進 ・今年度は急務であった事務作業の効率化に目途が立った。事務部門のDX化による創出された人的リソースを研究活動の支援、外部資金獲得に振り向けていく予定。	2. 研究DXの推進 研究活動を支えるICT基盤環境を図り、オープンサイエンス時代を先導する研究を創出する。		2. 研究DXの推進 ・大きな進捗はなかった。				
◇研究データ基盤の整備 ・研究を支えるICT基盤強化		◇研究データ基盤の整備 研究を支えるICT基盤強化に関して、具体策を検討中。	◇研究データ基盤の整備 ・研究を支えるICT基盤強化		◇研究データ基盤の整備 ・大きな進捗はなかった。				
◇科研費の管理、運用の効率化 ・科研費獲得に向けICT基盤強化		◇科研費の管理、運用の効率化 これまで、手作業で行ってきた科研費の処理に関して、日々の支出処理、各種報告書出力まで管理業務の効率化と研究費の適正管理を目指して、科研費管理システム『科研費プロ』を昨年度導入した。昨年度の試行を経て本年度より本格導入したが、事務作業の低減、科研費の収支状況をタイムリーな可視化、公的機関へのレポート作成の迅速化に貢献している。	◇科研費の管理、運用の効率化 ・科研費獲得に向けICT基盤強化		◇科研費の管理、運用の効率化 ・科研費管理システム『科研費プロ』による導入効果により1名人員を削減できた。				

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【評価指標】 - 研究DXの推進状況 3. 事務DXの推進 教育研究を支える業務運営全般のDX化も加速させる。事務的処理に投入されてきた職員のリソースを大学価値創出にシフトさせ大学の競争力を高める。 ◇キャンパスプラン拡張と業務一元化 - 学生募集から卒業まで一元管理 ◇問合せ業務の効率化 - AIとチャットボット(自動会話プログラム)の活用 ◇事務カウンター業務の効率化 - 証明書コンビニ発行 - 電子マネー決済導入 - 業務の標準化と統合及びバックオフィス強化(共通業務)	Ⅳ	3. 事務DXの推進 - 事務DXを全学的に推進するため、全学横断組織である「事務DX推進プロジェクトチーム」を設置(7月1日)した。メンバーには次世代を担う若手・中堅職員が参加し、学生サービスの充実、サービス向上。業務の効率化に向けた議論を活性化させている。 ◇キャンパスプラン拡張と業務一元化 - 本学の課題である事務部の分散による業務の非効率化を解消するため、教務システム(Campusplan)のバックオフィス業務(データ入力、カリキュラム設定など)を、納入ベンダーであるシステムディ社にリモートで委託する新サービスの実験を行った。課題はあるものの、各事務部で共通する事務作業を仮想バックオフィスで集中的に行う可能性が見えて来た。今後人事部と具体化に向けた協議を行っていく。 ◇問合せ業務の効率化 - チャットボットは、問い合わせ業務の効率化として期待されるが、データベース構築に手間暇・コストがかかるため当面現実的ではない。 ◇事務カウンター業務の効率化 - 証明書に関しては、「学外(コンビニ)証明書発行システム」が学内サーバークラウド化の影響で導入が遅れたが、準備が整い、来年度4月1日より運用スタートする。これによる年間7000件の証明書発行業務の自動化が実現する。 - 学外証明書発行システム導入に伴いWebによる決済代行システムも併せて導入する、カウンターで現金決済を行ってきた追試や寮費の決裁などキャッシュレス化の道筋が見えてきた。次年度以降、電子マネーも導入も合わせて検討する。 - 事務部の分散による業務の非効率化を解消するため、教務システム(Campusplan)のバックオフィス業務(データ入力、カリキュラム設定など)を、納入ベンダーであるシステムディ社にリモートで委託する新サービスの実験を行った。課題はあるものの、各事務部で共通する事務作業を仮想バックオフィスで集中的に行う可能性が見えて来た。今後人事部と具体化に向けた協議を行っていく。	【評価指標】 - 研究DXの推進状況 3. 事務DXの推進 教育研究を支える業務運営全般のDX化も加速させる。事務的処理に投入されてきた職員のリソースを大学価値創出にシフトさせ大学の競争力を高める。 ◇キャンパスプラン拡張と業務一元化 - 学生募集から卒業まで一元管理 ◇問合せ業務の効率化 - AIとチャットボットの活用 ◇事務カウンター業務の効率化 - 証明書コンビニ発行 - 電子マネー決済導入 - 業務の標準化と統合及びバックオフィス強化(共通業務)	Ⅲ	3. 事務DXの推進 2024年4月からコンビニ学外証明書発行システムを導入した。年間7000件の証明書発行で割合の大きい成績証明書、卒業証明書、終了証を自動発行することで、現金回収工数や手作業の工数が削減できた。 - 新入生学生証作成では、4月オリエンテーション時に顔写真の撮影をキャンパスで行ったが、昨年に引き続き今年も富士フィルムの顔写真アップロードクラウドサービスを活用して写真を回収した。また、学生カードの登録も紙からWebフォーム利用に変更して、各キャンパス事務部の負担を軽減できた。 ◇キャンパスプラン拡張と業務一元化 - 学生募集から卒業まで一元管理が理想だが、CampusPlanだけでは現在の業務を実現できず、各部門間の調整や整理が進んでいない。 ◇問合せ業務の効率化 - 奨学金業務の問い合わせの効率化を、マイクロソフトのAIチャットポッドで実現できないか、テストを行ったが、回答用のネタ・情報を準備することが課題である。実現には時間を要す。 ◇事務カウンター業務の効率化 - 証明書コンビニ発行は2024年4月稼働した。 - 事務部の電子マネー化は、東が丘キャンパス事務部と導入検討(業者のデモ・ヒアリング)を行ったが、部分的にしか電子化できないため、検討を一旦ペンディングした。 - 現在、財政健全化が本学の課題であり、事務の効率化は急務であるが、業務や人の分散化により非効率な状態は継続している。教務系システム(CampusPlanやWebclass)の入力やアウトプット、ITシステム支援、教室設備運用支援などバックオフィス強化できると人的リソースの再配分が可能になるので、継続して検討したい。				

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
◇業務のオンライン化 ・各種決済 ・勤怠管理 ・雇用委託契約 ・会議、コラボレーション ◇ペーパーレス化 ・事務局ペーパーレス化 ・保管資料のペーパーレス化 ・ペーパーレス会議の検討 ◇データによる教学IR、経営IRの推進 ・データ資産の集約基盤整備 ◇データによる教学IR、経営IRの推進 ・データ資産の集約基盤整備 【評価指標】 ・事務DXの推進状況 【計画46】（研究協力部） 教育研究活動に必要な教員の研修の機会を確保するため、学会・研究会に参加する等、就業規則に基づき適切な配慮を行う。また、外部資金への積極的な申請を奨励し獲得を図る。 【計画達成のための方策】 教育受託研究費・奨学寄附金等の外部資金への積極的な獲得を奨励する。 また科学研究費等補助金については外部講師を招いて定期的に説明会を開催し申請・獲得を図る。 【評価指標】 ・受託研究費・奨学寄附金等外部資金の獲得状況、科学研究費等補助金の説明会等の開催状況（開催回数、参加者数、参加率）	Ⅲ	◇業務のオンライン化 ・学外証明書発行システム導入に伴いWebによる決済代行システムも併せて導入する、カウンターで現金決裁を行ってきた追試や寮費の決裁などキャッシュレス化の道筋が見えてきた。次年度以降、電子マネーの導入も含め、具体的な移行について検討を行う。 ・勤怠管理システムは人事部手動で今年度導入を検討、次年度より導入を開始する予定。 ・ZOOMや電子黒板の積極的な導入により、出張費や時間の削減に寄与している。また、会議そのものの時間短縮という副産物も生まれている。 ◇ペーパーレス化 ・大学経営会議など、外部メンバーへの従来通り印刷物を配布しているが、今年度より学内関係者はPDFを事前配布する運用に変更を行った。紙資源の削減と事務作業軽減に寄与している。学内の主要会議のレスペーパー化は、その他の会議のレスペーパーにも波及しつつある。 ◇データによる教学IR、経営IRの推進 ・大きな進捗がないが、学生募集や経営判断においてビッグデータの活用が必須であり、次年度の優先課題としたい。	◇業務のオンライン化 ・各種決済 ・勤怠管理 ・雇用委託契約 ・会議、コラボレーション ◇ペーパーレス化 ・事務局ペーパーレス化 ・保管資料のペーパーレス化 ・ペーパーレス会議の検討 ◇データによる教学IR、経営IRの推進 ・データ資産の集約基盤整備 ◇データによる教学IR、経営IRの推進 ・データ資産の集約基盤整備 【評価指標】 ・事務DXの推進状況 【年度計画46】 教育受託研究費・奨学寄附金等の外部資金への積極的な獲得を奨励する。 また科学研究費等補助金については外部講師を招いて定期的に説明会を開催し申請・獲得を図る。 【評価指標】 ・受託研究費・奨学寄附金等外部資金の獲得状況、科学研究費等補助金の説明会等の開催状況（開催回数、参加者数、参加率）	Ⅲ	◇業務のオンライン化 ・現在、紙ベースで行っている原議申請に関して、すでに利用しているX-POINT（稟議用）を活用することで、原議による意思決定をスピードアップする。 ◇ペーパーレス化 ・大学としてペーパーレス宣言を発出して、全学的にSDGSやエコに対する意識向上と紙資源削減を推進している。会議資料の削減（大学経営会議など）はもちろん、現在無制限になっている学生の印刷に関しても、Papercutポイント課金機能を追加導入の準備を進めており、次年度より実質的な削減を狙っている。 ◇データによる教学IR、経営IRの推進 ・システムの基盤強化に至っていない。				

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画47】(図書館) ポストコロナに向け、図書館機能の整備・充実を図るとともに、図書館利用者のサービスの向上を図る。 【計画達成のための方策】 1. 教育研究遂行上必要な図書・学術雑誌・視聴覚資料・電子媒体等の整備・充実に努める。 【評価指標】 ・図書・学術雑誌・視聴覚資料・電子媒体等の整備状況 2. 図書館管理システムにより、利用サービスの維持・向上を図る。 【評価指標】 ・図書館管理システムによる利用サービスの改善状況 3. 新入生に対する図書館利用に関するオリエンテーションを実施するとともに、利用者のニーズに対応した図書館ガイダンスを適切に実施する。 【評価指標】 ・図書館ガイダンスの実施状況 4. 図書館利用に関する学生及び教職員からの相談を適切に行うとともに、文献複写サービスの提供に努める。また、ラーニング・commonsの整備に努める。 【評価指標】 ・利用者からの相談状況、文献複写サービスの活用状況、ラーニング・commonsの整備状況 5. 図書館の書架を体系的・目的別に整備し、書架の案内掲示を見易くする等利用サービスに努める。 【評価指標】 ・利用サービスの改善状況 6. 地域に開かれた大学として地域開放に努めるとともに、図書館利用の拡充に努める。 【評価指標】 ・地域住民等による利活用状況	IV	1. 例年と概ね同程度の数の図書・視聴覚資料・電子書籍の受入を実施した。学術雑誌は休刊と電子版移行により購読数が減少し、その分電子雑誌の購読数が増加した。 2. 図書館システムを通して受入資料の目録を公開し、所在情報やアクセス情報を提供した。 3. 全学部・専攻科・研究科の新入生に対してそれぞれ対面での図書館ガイダンスを実施したほか、学部生・大学院生に対して文献検索・データベースガイダンスを実施した。文献検索・データベースガイダンスは希望に応じて録画映像の配布も実施している。 4. 例年と同程度学生及び教職員からの相談に対して回答を行い、文献複写サービスを実施した。 ・ラーニング・commonsの整備について進捗はない。 5. 各館において書架の整備、案内掲示を行っている。 6. 附属世田谷図書館で地域利用者への図書館利用を展開しているが利用申込はなかった。附属東が丘図書館が参加する目黒区の医療系図書館地域連携の名称を「めぐりぶ健康ネット：めぐる図書館健康情報連携」と決定し、共同企画展示「病気と仕事の両立」を開催した。	【年度計画47】 1. 教育研究遂行上必要な図書・学術雑誌・視聴覚資料・電子媒体等の整備・充実に努める。 【評価指標】 ・図書・学術雑誌・視聴覚資料・電子媒体等の整備状況 2. 図書館管理システムにより、利用サービスの維持・向上を図る。 【評価指標】 ・図書館管理システムによる利用サービスの改善状況 3. 新入生に対する図書館利用に関するオリエンテーションを実施するとともに、利用者のニーズに対応した図書館ガイダンスを適切に実施する。 【評価指標】 ・図書館ガイダンスの実施状況 4. 図書館利用に関する学生及び教職員からの相談を適切に行うとともに、文献複写サービスの提供に努める。また、ラーニング・commonsの整備に努める。 【評価指標】 ・利用者からの相談状況、文献複写サービスの活用状況、ラーニング・commonsの整備状況 5. 図書館の書架を体系的・目的別に整備し、書架の案内掲示を見易くする等利用サービスに努める。 【評価指標】 ・利用サービスの改善状況 6. 地域に開かれた大学として地域開放に努めるとともに、図書館利用の拡充に努める。 【評価指標】 ・地域住民等による利活用状況	III	1. 資料購入費の見直しにより昨年度と比較して79.1%の図書・視聴覚資料・電子書籍の受入となり、学術雑誌の購読数は昨年度と比較して94.7%となった。電子雑誌の購読数は同数を維持している。 2. 図書館システムを通して受入資料の目録を公開し、所在情報やアクセス情報を提供した。 3. 全学部・専攻科・研究科の新入生に対してそれぞれ対面での図書館ガイダンスを実施したほか、学部生・大学院生に対して文献検索・データベースガイダンスを実施した。この他に教員の要請により授業時間を利用した文献検索・データベースガイダンスを6回実施した。 4. 例年と同程度学生及び教職員からの相談に対して回答を行い、文献複写サービスを実施した。 ・ラーニング・commonsの整備について千葉看護学部図書館委員会活動として千葉大学ラーニングcommonsの見学を実施した。 5. 各館において書架の整備、案内掲示を行っている。 6. 附属世田谷図書館で地域利用者への図書館利用を展開しているが利用申込はなかった。附属東が丘図書館が参加する目黒区の医療系図書館地域連携「めぐりぶ健康ネット：めぐる図書館健康情報連携」において共同企画展示「飲酒と健康」を開催した。				